

工芸館開館40周年記念所蔵作品展

名工の明治

Master Hands in the Meiji Period : The Crafts Gallery's 40th Anniversary Exhibition from the museum collection

2018年3月1日(木)～5月27日(日)

明治から現代まで、名工の精神を受け継ぐ工芸の名品、約100点を紹介します。

MASTER HANDS IN THE MEIJI PERIOD
THE CRAFTS GALLERY'S 40TH ANNIVERSARY EXHIBITION — FROM THE MUSEUM COLLECTION
MARCH 1, 2018 - MAY 27, 2018
TIME: 10:00-17:00
LAST ADMISSION IS 30 MINUTES BEFORE CLOSING.
CLOSED: MONDAYS (EXCEPT MARCH 26, APRIL 2, 30, 2018)

超絶技巧の
隠れた名品
《十二の鷹》
十二羽一挙公開!

名工の明治

工芸館開館40周年記念所蔵作品展
2018. 3. 1 木 - 5. 27 日
休館日=月曜日(3月26日、4月2日、4月30日は開館)
開館時間=午前10時—午後5時(入館は午後4時30分まで)

工芸館
MOMAT
The National Museum of Modern Art, Tokyo

広報用図版No.1: 名工の明治展ポスター

明治時代、その優れた技術によって帝室技芸員に任命された鈴木長吉(1848-1919)。当館所蔵の《十二の鷹》は彼の代表作の一つで、1893年にアメリカのシカゴで開催されたコロンブス世界博覧会で発表されました。古来より武将たちが好んで行った鷹狩りで用いられる鷹をモチーフに、本物と見紛うリアルな表現と、金、銀、銅、赤銅、四分一といった金属の色を巧みにちりばめた華やかさで世界の人々を驚かせました。

当館では、数年をかけてこの《十二の鷹》の修復に取り組んできましたが、このたび修復後はじめて、十二羽そろってお披露目をいたします。長らく失われていた架垂(鷹の止まり木に使用される装飾布)と紐も復元され、発表当初の鮮やかな色合いがよみがえりました。「明治150年」にもちなみ、本展では、高い技術力と表現力を兼ね備え明治の精神を今に伝える工芸家たちの作品もあわせてご覧いただけます。現代の工芸作品も含めた当館所蔵作品約100点を通して、技と表現が現代にいかにか継承されたのか、その展開を探ります。

報道関係の方の
お問合せ先

東京国立近代美術館工芸館

展覧会担当/北村、中尾 広報担当/高橋

Tel : 03-3211-7781 (工芸課直通)

E-mail : koge-pr@momat.go.jp

掲載用お問合せ先

Tel : 03-5777-8600 (ハローダイヤル)

公式HP

http://www.momat.go.jp

広報用図版No.2-A: 鈴木長吉《十二の鷹 八》1893年



広報用図版No.2-B: 鈴木長吉《十二の鷹 参》1893年



広報用図版No.2-C:
鈴木長吉《十二の鷹 拾壹》1893年



広報用図版No.2-E: 鈴木長吉《十二の鷹》1893年

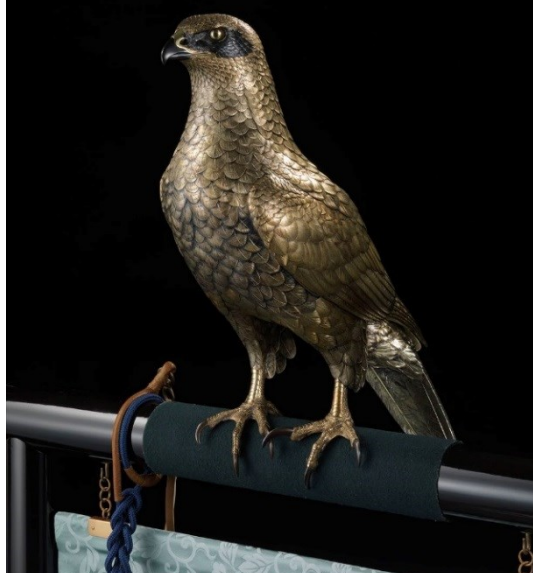
修復後初の一挙公開！《十二の鷹》

鷹狩りに用いられる鷹をモデルにした《十二の鷹》は、明治の美術商・林忠正の発注で、制作されたものです。作者である金工家・鈴木長吉は、実際に鷹を飼って写生したり、古い絵画や史料を調べたり、その準備に4年の歳月を費やしたといいます。確かな観察眼によって追及されたリアルティは、羽毛の細かな質感だけでなく、翼を広げた勇ましい姿、爪先を咥えるしぐさ、獲物をにらみつける鋭い視線など、12羽それぞれの、生き生きとした動きに表れています。

一体ずつ近づいて見てみると、羽毛に残された鑿（たがね）の跡から、さまざまな道具が使い分けられていたことがわかります。切り嵌め象嵌によって、金と真鍮が使い分けられた眼球、くちばしの先に漆を用いるこだわりなど、見どころは尽きません。

本展では、実際の鷹狩りのようにしつらえた結びの紐や、漆で仕上げられた止まり木など、1893年のコロンブス世界博覧会の際の姿で、ご紹介します。

広報用図版No.2-D:
鈴木長吉《十二の鷹 弐》1893年



“帝室技芸員”と“工芸済々会”

明治23（1890）年、宮内省はすぐれた美術・工芸家を保護するための制度として「帝室技芸員制度」を発足させました。工芸分野では鈴木長吉のほか、精密な高浮彫りで鳥や花を表す細工物を得意とした初代宮川香山、蒔絵による写実的な表現を追究した池田泰眞らが任命されました。

さらに大正14（1925）年には、東京美術学校系の作家と在野で活躍していた中堅の作家を中心に「工芸済々会」が結成されました。絵画をはじめ幅広い美術的素養により、唐物中心の技法からの脱却をめざした二十代堆朱楊成や、漆芸に科学的視点からアプローチした六角紫水など、伝統と西洋文化の融合によって工芸に新しい視点を見出そうとした彼らの活躍は、後の世代にも大きな影響を残しました。明治から大正へ、バウハウス、アールデコなどヨーロッパからの刺激も吸収しながら発展する土台を作りました。



広報用図版No.3: 初代宮川香山《鳩桜花図高浮彫花瓶》1871-82年頃



広報用図版No.4: 二十代堆朱楊成《彫漆六華式平卓》1915年

現代の名工

戦後、重要無形文化財制度が発足すると、工芸分野でも「色絵磁器」や「蒔絵」「紬織」など、それぞれの技法が文化財として保護されることになり、優れたわざを高度に体得した工芸家が、その保持者に認定されるようになりました（人間国宝）。

「蒔絵」の分野で認定を受けた松田権六は、大胆な意匠構成によって格調高い作品を生み出す傍ら、伝統工芸技法の復興と普及、さらに後進の指導にも情熱を傾けました。「彩釉磁器」の分野で認定された三代徳田八十吉は古九谷をはじめ伝統的な九谷焼の技法の伝承だけでなく、現代陶芸の要素を融合した表現で、海外の展覧会でも注目を集めた作家です。

現代の工芸家による作品を通じて、明治から脈々と受け継がれてきた日本の工芸の系譜を探ります。



左) 広報用図版No.5: 松田権六《蒔絵螺鈿有職文飾箱》1960年
右) 広報用図版No.6 三代徳田八十吉《耀彩鉢 創生》1991年

開催概要

展覧会名 (日本語) 工芸館開館40周年記念所蔵作品展 名工の明治
(英語) Master Hands in the Meiji Period
The Crafts Gallery's 40th Anniversary Exhibition from the museum collection

会期 2018年3月1日(木)～5月27日(日)

開館時間 午前10時～午後5時 (入館は閉館30分前まで)

休館日 月曜日(3月26日、4月2日、4月30日は開館)

主催 東京国立近代美術館

会場 東京国立近代美術館工芸館

アクセス 東京メトロ東西線「竹橋駅」1b出口 徒歩8分
東京メトロ東西線・半蔵門線 / 都営新宿線「九段下駅」2番出口 徒歩12分
〒102-0091 東京都千代田区北の丸公園1-1

観覧料 一般250円(200円) 大学生130円(60円)
高校生以下および18歳未満、65歳以上、「MOMATパスポート」をお持ちの方、友の会、賛助会員、MOMAT支援サークルパートナー企業(同伴者1名まで、シルバー会員は本人のみ)、キャンパスメンバーズ、障害者手帳をお持ちの方とその付添者(1名)は無料。

* () 内は20名以上の団体料金。いずれも消費税込。

* 割引・無料には入館の際、学生証・運転免許証など年齢のわかるもの、会員証、社員証、障害者手帳をご提示ください。

3月4日(日)、4月1日(日)、5月6日(日)、5月18日(金・国際博物館の日)は無料観覧日

イベント

スケジュール

内容や日程については変更
の可能性があります。最新
情報はHPでご確認ください。

●3月18日(日) ギャラリートーク&写真撮影会

田籠善次郎氏・大塚紀子氏(ともに諏訪流鷹匠)によるギャラリートークと、工芸館前庭でオオタカとの写真撮影会を行います。(撮影会は先着40名まで)

※詳細はHPをご覧ください。

●4月1日(日)、4月22日(日) ギャラリートーク

当館研究員が会場で、展覧会の見どころを分かりやすく解説します。

●会期中水・土曜日 タッチ&トーク

工芸館ガイドスタッフによる鑑賞プログラム。〈さわってみようコーナー〉と、会場トークの2部構成で、さまざまな角度から展覧会の見どころを紹介します。

※いずれも会場にて、午後2時から約60分。申込不要・参加無料(要当日観覧券)

掲載用お問い合わせ先 Tel: 03-5777-8600 (ハローダイヤル)

公式HP <http://www.momat.go.jp>



東京国立近代美術館工芸館は2017年に開館40周年を迎えました。

東京国立近代美術館の分館である工芸館は、1977年日本の国立美術館の中で初めて、工芸とデザインを専門に扱う美術館として開館しました。2017年7月～2018年5月までの展覧会の会期中、40周年を記念したさまざまなイベントやキャンペーンを行います。

<差出・発行>

102-0091 東京都千代田区北の丸公園1-1

東京国立近代美術館工芸館 広報担当

広報用図版 請求票

FAX : 03-3211-7783 (工芸課) 広報担当 行
発信日 年 月 日

<input checked="" type="checkbox"/>	No.	作品
	1	「名工の明治」展ポスター
	2-A	鈴木長吉《十二の鷹 八》1893年 東京国立近代美術館蔵
	2-B	鈴木長吉《十二の鷹 参》1893年 東京国立近代美術館蔵
	2-C	鈴木長吉《十二の鷹 拾壹》1893年 東京国立近代美術館蔵
	2-D	鈴木長吉《十二の鷹 弐》1893年 東京国立近代美術館蔵
	2-E	鈴木長吉《十二の鷹》1893年 東京国立近代美術館蔵
	3	初代宮川香山《鳩桜花図高浮彫花瓶》1871-82年頃 東京国立近代美術館蔵
	4	二十代堆朱楊成《彫漆六華式平卓》1915年 東京国立近代美術館蔵
	5	松田権六《蒔絵螺鈿有職文飾箱》1960年 東京国立近代美術館蔵
	6	三代徳田八十吉《燿彩鉢 創生》1991年 東京国立近代美術館蔵

- ・ご希望の図版の左枠内に✓を入れてFAXでお送りください。
- ・作品図版はJPEGデータをご用意しています。
- ・展覧会広報のみにご使用ください。著作権保護のため、他の目的でのご使用は固くお断りいたします。
- ・掲載見本を広報担当者へご寄贈ください。(Webサイトの場合は掲載時にお知らせ下さい)

ご担当者名：

E-mail：

貴社名：

出版物・放送番組・ウェブサイト名：

URL (http://www)

掲載予定号・発行日/放送・公開日時等：

電話番号： ()

Fax: ()

*展覧会をご紹介いただける場合は、読者プレゼント用招待券をご用意いたします。

希望しない/希望する (5 組 10 枚)

〒

チケット送付先：